

石垣島 仲縄県

市蝶のオオゴマ
ダラ。パンナ森
林公園で



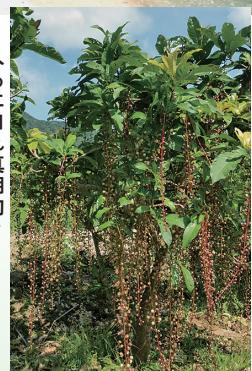
西表石垣国立公園の川平湾。
環境の変化でサンゴの死滅が
心配されるがグラスボートに
乗れば色鮮やかな熱帯魚や巨
大サンゴを確認できる



旅行者も一緒に漂着ゴミや漁具などを拾い集める



国立石垣島天文台は日本で唯一一般に公開。土星の輪がはっきり見えた



平久保の森の入口附近に自生するサガリバナ。奥には4万本以上の自生群落が発見された。下の写真は真夜中に開花、夜明けと共に散る、幻の花、サガリバナ



島の野草の9割は薬草と島のおばあ。ツルムラシキはニンニク炒めで

文撮影／大野尚子（旅行ジャーナリスト）『月刊アジア俱楽部』元編集長。NHK「関西ラジオワイド」の「アジア旅情報」を17年間担当。レギュラー出演中。日本旅のベンクラフ理事。日本ベトナム経済交流センター顧問。朝日カルチャーセンター講師。2010年よりソウル観光広報記者。台湾埔里親善大使。韓国安東觀光サポーター。『ペトナム家庭料理入門』（農文協）、『ベトナム経済交流センター顧問。朝日カルチャーセンター講師。2010年よりソウル観光広報記者。台湾埔里親善大使。韓国安東觀光サポーター。『ペトナム家庭料理入門』（農文協）、『ベトナムのすすめ』（PHP）など著書多数。イベントコーディネーターとしても多忙。

島北部の平久保半島の森に群生するサガリバナも貴重な島の宝だ。夜に開花し、夜明けと共に散る幻の花の群落を未来に残さなければ、地元に保存会も生まれた。旅行者の植樹も可能だ。ウミガメ繁殖地帯の保全活動も始まった。ビーチの清掃や植樹に参加することで原風景を守るお役に立てる。観光のあり方のひとつとして注目したい。

石垣島では3月5日のサンゴの日から1週間を「サンゴワイーク」と定めて、ビーチの清掃や植樹など環境保全と美化活動を続けてきた。ビーチクリーンは、サーファーの海への感謝の気持ちから始まり、官民一体、観光客も参加しての活動に発展。今も毎月5日に「海LOVEネットワーク」の皆さんによるビーチ清掃が続けられている。

石垣島では3月5日のサンゴの日から1週間を「サンゴワイーク」と定めて、ビーチの清掃や植樹など環境保全と美化活動を続けてきた。ビーチクリーンは、サーファーの海への感謝の気持ちから始まり、官民一体、観光客も参加しての活動に発展。今も毎月5日に「海LOVEネットワーク」の皆さんによるビーチ清掃が続けられている。

中山義隆（石垣市長）も「『癒しの島』を守らなければ」と、島の若者と共にオニヒトデ駆除のために海に潜って観光なし」を訴え続けた。

「この自然を守らなければ観光客増加は望めない」と石垣市観光交流協会の宮平康弘前会長は「環境なくして観光なし」を訴え続けた。

ビーチクリーンや植樹に参加